

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目		
講義名	[00016] 歴史学						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらおう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	歴史学とはどういう学問か						
第2回	史実と伝承						
第3回	日本史の時代区分						
第4回	史（資）料とは						
第5回	旧暦と新暦						
第6回	日本の元号（1）						
第7回	日本の元号（2）						
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）						
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）						
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）						
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）						
第12回	調べ学修についての発表						
第13回	歴史散策1						
第14回	歴史散策2						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。							
【学生へのメッセージ】							
歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。							
【オフィスアワー】							
授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00034] 山梨県と峡南地域				
期間	通年（15回）		単位数	選択（2）	
種類	集中				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。					
【オフィスアワー】					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00035] 留学成果による単位認定				
期 間	通年（1回）		単 位 数	選択（30）以下	種 類 認定
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担当者	学長				
	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
交換留学生の単位を認定します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
【授業外学修の方法（時間数）】					
【成績評価（方法・基準）】					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回					
【教科書・参考書】					
【学生へのメッセージ】					
【オフィスアワー】					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目		
講義名	[00037] サービスラーニング						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。							
【成績評価（方法・基準）】							
事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？						
第2回	活動計画の構成と計画書の作成						
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）						
第4回	地域活動						
第5回	地域活動						
第6回	地域活動						
第7回	地域活動						
第8回	地域活動						
第9回	地域活動						
第10回	地域活動						
第11回	地域活動						
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし						
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正						
第14回	解決案の事業者への提案						
第15回	事後報告会と全体の振り返り						
【教科書・参考書】							
「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。							
【学生へのメッセージ】							
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
【オフィスアワー】							
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
【実務経験】							
元身延町教育委員							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00039] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。
キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

【成績評価（方法・基準）】

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り、報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00045] 身延町の福祉文化				
期間	前期（15回）	単位数	選択（2）		種類
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
2020年度は講義と演習、そして学外において聞き取り調査を行い、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方などにへの理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの習得をおこなう。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、外部に赴き、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では、講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうかにかどうかに20%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	身延町を理解しよう				
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動				
第4回	資料からみることができる身延町の福祉（1）				
第5回	資料からみることができる身延町の福祉（2）				
第6回	プレゼンテーション（1）				
第7回	地域図書案の活用（地域情報の入手と加工）				
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）				
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）				
第10回	プレゼンテーション（2）				
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）アンケート項目の設定				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）アンケート内容の検証				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決策のプレゼンテーション（3）				
【教科書・参考書】					
教科書は特になし。授業において適宜に紹介する。参考書も授業において紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目「福祉文化」という聞き慣れない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。					

【オフィスアワー】

池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

【実務経験】

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[00509] デス・エデュケーション					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
講義毎のレポート100%						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）					
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）					
第3回	倫理学（自由主義の原則）					
第4回	生殖医療の現状 1					
第5回	生殖医療の現状 2					
第6回	終末期医療の現状 1					
第7回	終末期医療の現状 2					
第8回	臨死体験のワーク					
第9回	日蓮聖人の終末期					
第10回	精神疾患について（自死、自殺）					
第11回	グリーンワーク					
第12回	傾聴					
第13回	終活、事前指示					
第14回	医療現場における宗教者					
第15回	ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟）					
【教科書・参考書】						
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫						
【学生へのメッセージ】						
積極的に授業に参加することを望む。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
腎臓内科医						

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[00510] 総合仏教				
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担当者	学務委員長				
	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。					
【成績評価（方法・基準）】					
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もろさずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05171] 法律学概論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ	hori yasuhiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代国家はすべての決定や判断を法に基づいて行い、法治主義を採用し、法は私たちのあらゆる生活部門に関係しています。私たちの身近な法である憲法・民法（契約の自由とその制限・過失責任とその修正）・商法・会社法・労働法・刑法（犯罪と刑罰）等を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会人として必要とされる身近な法律を体系的に習得することで、現代法治国家の問題点について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるようになることを、本授業の目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における法の問題点（法分野は問わない）について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した判例・新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	法とは何か				
第2回	法の発展と社会の発展（近代法から現代法へ）				
第3回	わが国の法体系				
第4回	法と裁判				
第5回	裁判の基準（法源）と法の解釈				
第6回	近代国家と憲法				
第7回	犯罪と刑罰				
第8回	家族1（親族）				
第9回	家族2（相続）				
第10回	契約の自由とその制限				
第11回	財産権・営業の自由の保障とその修正				
第12回	損害賠償と過失責任、過失責任主義の修正				
第13回	労働者の基本的人権、働き方改革				
第14回	ビジネスに関する法律（商法・会社法）				
第15回	プレゼンテーション（現代法の問題点）				
【教科書・参考書】					
教科書：『現代法学入門（第4版）』伊藤 正己・加藤一郎（有斐閣）2005年。参考書：『日本人の法意識』川島 武宜（岩波新書）1967年、『法律学入門（第3版補訂版）』佐藤幸治（有斐閣）2008年、『法学入門（第6版補訂版）』末川博（有斐閣）2014年。					
【学生へのメッセージ】					
現代法治国家が抱えるさまざまな問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。					
【オフィスアワー】					
毎回授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
株式会社中部銀行24年。銀行における法務担当の経験から日常生活とビジネスに関する法について具体的事例をあげて授業をします。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05172] 社会学概論【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会学とはどのような学問なのか、情報化、消費化社会の展開とその矛盾、その未来について学びます。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
社会学とは、社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究する学問である。社会学というものの考え方を押さえた上で、基本的概念、現実的諸問題についてふれていきたい。社会学のものの考え方、基本的概念、現代が直面する課題を理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義を中心とする。受講者数によっては、学生諸君にも発表をお願いする。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修120分、資料や指示されたテキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学修120分、ノートを整理しながら資料やテキストを読み直し、要点をまとめること。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポートを含む期末試験70%、授業への積極性30%				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	社会学とはどんな学問か			
第2回	社会学の成立、歴史と展開			
第3回	情報化・消費化社会の展開（1）			
第4回	情報化・消費化社会の展開（2）			
第5回	環境の臨界（1）			
第6回	環境の臨界（2）			
第7回	夢の時代と虚構の時代（1）			
第8回	夢の時代と虚構の時代（2）			
第9回	リアリティ・アイデンティティの変容			
第10回	現代人は愛しうるか			
第11回	北の貧困、南の貧困（1）			
第12回	北の貧困、南の貧困（2）			
第13回	現代世界の困難と課題（1）			
第14回	現代世界の困難と課題（2）			
第15回	人間と社会の未来			
【教科書・参考書】				
見田宗介「現代社会の理論」(岩波新書1996年)と「社会学入門」(岩波新書2006年)をテキストとして使用しつつ、適宜参考文献を紹介する。宮島喬編『岩波小辞典社会学』、那須壽編『クロニクル社会学』(有斐閣)、岩波講座『現代社会学』(岩波書店 26巻)				
【学生へのメッセージ】				
日頃から社会問題に関心を持ってほしい。				
【オフィスアワー】				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05175] 教育制度				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日本における教育制度の原理と歴史の変遷を踏まえ、現在の教育制度が直面する諸課題について、概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
主題は、現代日本の教育制度改革である。1990年代から制度改革が要請される社会的背景、制度理念およびその具体化を教育政策の展開と関連づけて考察する。戦後教育制度の原理とその後の展開、1990年代から始まる教育制度改革の急展開と矛盾を理解し、子どもの学習権を保障する教育制度のありかたを考える力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。なぜいま教育制度の改革か				
第2回	戦後教育制度の原理とは何であったのか				
第3回	50年代教育制度改革の試みとその挫折				
第4回	60年代.....人的能力開発政策とその矛盾				
第5回	オイルショック後の教育制度の機能不全の進行				
第6回	臨時教育審議会の設置 (84年 - 87年)				
第7回	急速に変わる日本の学校.....少子化のなかでの特色ある学校づくり				
第8回	新自由主義教育改革の登場.....市場原理と公教育のスリム化				
第9回	子どもの権利条約の思想				
第10回	自治体の教育改革の動向				
第11回	教育基本法の改正は何をめざしたのか				
第12回	教育における国家の台頭				
第13回	子ども参加の教育改革の動向(1)				
第14回	子ども参加の教育改革の動向(2)				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教職課程共通に使用する資料として、志村欣一・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。竹内常一『日本の学校のゆくえ』（太郎次郎）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、高橋哲哉『心と戦争』（晶文社）。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05176] 公民科教育法				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
公民科の教員として必要となる知識を獲得し、戦前の教育における「公民」と戦後の教育における「公民」概念の相違を理解して、現代社会に必要な「公民」の健全な育成に向けての課程を理解する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
戦後、高等学校の教育課程では学習指導要領の改訂が7回実施された。そして、教育基本法改定に伴い新学習指導要領が中央教育審議会により改訂されている。その中で、「公民の資質」に直接係わる公民科はあらためてその「意義を見直されるべき時期に来ている」と言えるだろう。公民科の教育過程を具体的に知り、その意義を理解することを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
前半は講義を中心に、公民科の成り立ちを追う。後半は、現在の公民科教育課程についての理解と、受講生それぞれの問題意識を問う。参考書などを用いて、当該講義の内容に関する確認を行うこと。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を指定する。また、必要に応じて資料をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約1時間30分程度を要する。事後学習について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学期末試験レポート40%、中間レポート2回30%、授業中の積極性（課題に対する取組み）20%、ノート作成の評価10%。ノートは、授業の要旨がおさえられているか、見やすく整理されているか、受講生の工夫があるか、といった点を評価の対象とする。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	公民という概念の形成 - 西欧と日本 -				
第3回	公民育成の歴史的経緯 - 古代から民主主義まで -				
第4回	学校教育と公民育成の経緯 - 公民的資質 -				
第5回	学校教育と公民科 - 公民科教育 -				
第6回	公民科とは何か - 社会科から公民科へ -				
第7回	公民科の内容 - 現代社会 -				
第8回	公民科の内容 - 現代社会 -				
第9回	公民科の内容 - 現代社会 -				
第10回	公民科の内容 - 倫理 -				
第11回	公民科の内容 - 倫理 -				
第12回	公民科の内容 - 政治経済 -				
第13回	公民科の内容 - 政治経済 -				
第14回	公民科教育の現状				
第15回	公民科教育の課題				
【教科書・参考書】					
テキストは特になし。参考書は、平成4年、14年版『学習指導要領』（文部省）、柿沼、安澤、茂木共編『改訂高等学校学習指導要領の展開』（明治図書）、熊谷一乗著『公民科教育』（学文社）などがある。その他、適宜に授業中に紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
資格として教職過程を修めようとするのであれば、欠席は厳禁である。また、公民科は現代社会の問題に直接に関わる科目であることを十分に理解して授業に臨んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
【実務経験】					
元身延山高等学校教諭(社会科)、元身延町教育委員					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05177] 公民科教育法
-----	----------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

学習指導要領に求められる「公民科」の教員として必要となるスキルを獲得するための技術と心構えを学修する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

公民科教育は、現代教育の中で日増しに重要性が再認識されている科目の1つである。人権や環境、社会インフラなどの現代的問題をどのように教授してゆけばよいか。本講義では、シラバス作成の理念を理解し、実際にシラバスを作成し、その内容に則り、単元の授業案を作成し、生徒主体型の授業展開を踏まえて、模擬授業が行えることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義形態を取るが、実質的に後半はゼミナールと同様である。学生諸君に与えられた課題を演習形式と実技形式で行う。模擬授業を行うので、学習指導案の作成は事前に行っておくこと。模擬授業の後は、教員の指導を書きとめ、指摘された問題点の克服に努めること。最低2回の模擬授業を行っていただく。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学習について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を指定する。また、必要に応じて資料をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約1時間30分程度を要する。事後学習について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。

【成績評価（方法・基準）】

学期末試験レポート30%、模擬授業（指導案の作成、資料の内容も評価の対象とする）2回40%、授業中の積極性（課題に対する取り組み）20%、ノート作成の評価10%（ノートは、授業の要旨がおさえられているか、見やすく整理されているか、受講生の工夫があるか、といった点を評価の対象とする）。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション
第2回	公民科教育課程の考え方
第3回	年間授業計画とは何か
第4回	年間授業計画立案の具体例と作成
第5回	学習指導案とは何か
第6回	学習指導案の考え方と授業の組み立て
第7回	IoT機器を用いたアクティブラーニング授業
第8回	アクティブラーニングによる授業の進め方
第9回	授業の構成と進め方
第10回	学習活動の評価方法と考え方
第11回	学習指導案の作成と点検の方法
第12回	模擬授業（その1）
第13回	模擬授業（その2）と（その1）の振り返り
第14回	模擬授業（その3）と（その2）の振り返り
第15回	（その3）の振り返りと公開模擬授業、まとめ

【教科書・参考書】

テキストは特になし。参考書は、平成元年版『学習指導要領』（文部省）、柿沼、安澤、茂木共編『改訂高等学校学習指導要領の展開』（明治図書）、熊谷一乗著『公民科教育』（学文社）などがある。その他、適宜に授業中に紹介する。

【学生へのメッセージ】

模擬授業を重んじるので、平常点の比率が高い。従って、当該時間の欠席はダブルのマイナス点となる。欠席は厳禁である。公民科教育法の単位を修得済みであること。

【オフィスアワー】

火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

元身延山高等学校社会科教諭、元身延町教育委員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05178] 宗教科教育法				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講 義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	高橋 智恂		タカハシ チジュン	takahashi chijyun	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、授業を行う際に於いて、年間指導計画、単元の設定、実際の授業展開についての概要を理解するとともに、「釈尊伝」をテーマとした模擬授業を実施することにより、授業のあり様を体感するものである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
本授業は、「教科指導の方法」を主題とするものである。したがって、受講生諸君にあつては、年間指導計画の立案を始め、学習指導案や授業ノートを作成の上、それらに基づいた模擬授業を実際に体験することを通して、中学・高校の教壇に立って授業を行なう際の具体的な方法を身につけることが目標となる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
受講生諸君には、与えられたテーマに沿って、学習指導案や授業ノートの作成に取り組むとともに、それらに基づいた50分程度の模擬授業を実施してもらう。模擬授業の終了直後、他の受講生および担当教員から、質問とともに、評価すべき点と改善すべき点について具体的な指摘を受ける。模擬授業終了後には、授業を行なう際に用いた学習指導案、資料等を必ず提出すること。なお、宗教科教育法 においては「釈尊伝」を教科科目として設定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
2時間以上を目途として事前・事後の学修を行なうこと。事前・事後の学修とともに、授業中の課題に集中する中で、多くを吸収していくことが大切である。					
【成績評価（方法・基準）】					
模擬授業50%、学習指導案等25%、授業に取り組む姿勢25%。上記日程は受講生全員の出席を前提としている。その点には十分留意すること。担当模擬授業の欠席は、特別な理由のない限り、履修放棄とみなす。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	本講義の方針および日程について、シラバスを踏まえて確認				
第2回	宗教科教育課程について				
第3回	年間指導計画の必要性と具体例				
第4回	年間指導計画の作成				
第5回	年間指導計画に基づいた単元の設定について				
第6回	学習指導案の必要性と具体例				
第7回	学習指導案および授業ノートの作成				
第8回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第9回	学習指導案および授業ノートに基づく授業展開の確認				
第10回	模擬授業および講評				
第11回	模擬授業および講評				
第12回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第13回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第14回	模擬授業予備日				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書は特に指定しない。必要があれば、その都度、指示する。					
【学生へのメッセージ】					
授業を行なうことの難しさを、まずは実感してほしい。その上で、自身の伸ばすべき点と改めるべき点を見出してほしい。					
【オフィスアワー】					
平日は身延山高等学校に勤務していますので、事前に連絡してください。メールアドレスはttakai@min.ac.jpです。					
【実務経験】					
身延山高等学校教員（宗教科）20年 教科内容：仏教大意、仏教概論、釈尊伝、法華経・、宗義、宗門史、法要式					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05179] 宗教科教育法				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	高橋 智恂		タカハシ チジュン	takahashi chijyun	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、「法華経」をテーマとした模擬授業を実施することにより、授業のあり様を体感するものである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
本授業は、「教科指導の方法」を主題とするものである。したがって、受講生諸君にあつては、学習指導案や授業ノートを作成の上、それらに基づいた模擬授業を実際に展開することを通して、中学・高校の教壇に立って授業を行なう際の具体的な方法を身につけることが目標となる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
受講生諸君には、与えられたテーマに沿って、学習指導案や授業ノートの作成に取り組むとともに、それらに基づいた50分の模擬授業を実施してもらう。模擬授業の終了直後、他の受講生および担当教員から、質問とともに、評価すべき点と改善すべき点について具体的な指摘を受ける。模擬授業終了後には、授業を行なう際に用いた学習指導案、資料等を必ず提出すること。今年度の教科テーマは「法華経」を教科科目として実施する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
模擬授業の実施にあたって、十分な事前・事後の学修を行なうこと。事前・事後の学修とともに、授業中の課題に集中する中で、多くを吸収していくことが大切である。					
【成績評価（方法・基準）】					
模擬授業50%、学習指導案等25%、授業に取り組む姿勢25%。上記日程は受講生全員の出席を前提としている。その点には十分留意すること。担当模擬授業の欠席は、特別な理由のない限り、履修放棄とみなす。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	本講義の方針および日程について、シラバスを踏まえて確認				
第2回	テーマ（1）「法華経の構成について」 学習指導案および授業ノートの作成				
第3回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第4回	模擬授業および講評				
第5回	模擬授業および講評				
第6回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第7回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第8回	テーマ（2）「法華経の内容について」 学習指導案および授業ノートの作成				
第9回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第10回	模擬授業および講評				
第11回	模擬授業および講評				
第12回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第13回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第14回	模擬授業予備日				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書は特に指定しない。必要があれば、その都度、指示する。					
【学生へのメッセージ】					
授業を行なうことの難しさを、まずは実感してほしい。その上で、自身の伸ばすべき点と改めるべき点を見出してほしい。					
【オフィスアワー】					
平日は身延山高等学校に勤務していますので、事前に連絡してください。メールアドレスはttakai@min.ac.jpです。					
【実務経験】					
身延山高等学校教員（宗教科）20年 教科内容：仏教大意、仏教概論、釈尊伝、法華経・、宗義、宗門史、法要式					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05183] 教育実習研究【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
教員免許状を取得するためには、教育実習が必修となっていますが、そのための事前事後指導を行います。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
教員免許状を取得するための基礎的な履修要件として教育実習が課されているが、この事前・事後指導を行うことを中心的内容とする。教育実習に臨むに当たっての心構えを豊かにし、実習生活を実りあるものとするができるよう努めることが特に求められる。教育実習の内容とそれに向けた準備、その段取り、実習を終えてからの取組みについて理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学修は、あらかじめ指示された参考文献、資料を読んでおくこと。事後学修は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業の性格上、出席と取り組みの姿勢を重視する（50%）。試験レポート(50%)。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	なぜ教職を志したのか(文書で提出)			
第3回	教育実習とはどういうものか			
第4回	実習校を確保する			
第5回	教師像のイメージづくり、一日学校体験のすすめ			
第6回	学習指導案をつくる			
第7回	教育実習生の心得			
第8回	教育実習のスケジュール確認			
第9回	先輩教師からの助言			
第10回	教育実習手帳を生かす			
第11回	授業づくりと指導案			
第12回	教育実習経験者の体験を聞く			
第13回	教育実習を終えて・・・成果と課題			
第14回	よい教師になるための課題			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
授業中に適宜紹介する。必要な資料は、随時配布する。				
【学生へのメッセージ】				
授業の性格上1/3以上欠席した学生には、単位を与えない。毎回、積極的に授業に参加してほしい。				
【オフィスアワー】				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				教職課程
講義名	[05184] 高等学校教育実習				
期 間	通年（1回）	単 位 数	選択（2）		種 類 実習
対象学年	--	--	--	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
高等学校において、教員免許状を取得するために必修となっている実習を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
教育実習校において3年次までに履修してきた教職科目を踏まえて、教育現場における実習を通して実践的な力量の基礎を身につけることが主な目的となる。実習期間は各実習校の規則に従い学校長および指導教員の指導監督のもとに実習を行う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教育実習校における教育実習を主たる内容とする実習科目である。実習内容に関しては、実習校に任せる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、指導教諭から指示された課題を必ず行うこと。事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習成績、実習記録をもとにした総合評価。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	実習				
【教科書・参考書】					
実習なのでテキストや参考書はありません。					
【学生へのメッセージ】					
教育実習生としての心得を遵守すること。					
【オフィスアワー】					
実習校の指導教諭と打ち合わせること。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05186] 教職実践演習（中・高）【平成30年度生まで】				
-----	--------------------------------	--	--	--	--

期 間	後期（30回）	単 位 数	必修（2）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	--	4年
------	----	----	----	----

担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira
-----	------	---------	--------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

教職課程全体を通して、学生諸君が一人前の教師のなるための力量を身につけたかを確認し、さらなる力量向上をめざすための実践的授業を行います。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために行うものであり、教育実習を踏まえて、教職課程の総まとめとして行う。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科に関する科目、教職に関する科目の履修状況、教育実習の成果と課題をふまえて、実践的な課題について演習形式で行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学習は、あらかじめ指示された資料やテキストを読み、自分の意見をまとめておく。（120分以上）

事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。（120分以上）

【成績評価（方法・基準）】

期末レポート50%、毎回の授業中の発表50%。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション
第2回	教育実習の成果と課題
第3回	教育実習の成果と課題
第4回	大学の教職課程、教員に求められる専門性と教育実践演習
第5回	大学の教職課程、教員に求められる専門性と教育実践演習
第6回	現代の子供が直面する課題
第7回	現代の子供が直面する課題
第8回	現代の子供が直面する課題
第9回	現代の子供が直面する課題
第10回	特別支援教育
第11回	特別支援教育
第12回	不登校・学校嫌い
第13回	不登校・学校嫌い
第14回	不登校の子への対応
第15回	不登校の子への対応
第16回	教育機会確保法について
第17回	教育機会確保法について
第18回	いじめ問題
第19回	いじめ問題
第20回	いじめへの対応
第21回	いじめへの対応
第22回	学習指導案の書き方
第23回	学習指導案の書き方
第24回	参加型学習を考案する
第25回	参加型学習を考案する
第26回	模擬授業を行う
第27回	模擬授業を行う
第28回	学校現場が抱える課題
第29回	学校現場が抱える課題
第30回	まとめ

【教科書・参考書】
授業の中で、適宜参考文献や資料を配布し、紹介する。
【学生へのメッセージ】
教職課程の総まとめであるから、教育実習を踏まえ、自らの課題について自覚して授業に臨むこと。
【オフィスアワー】
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。
【実務経験】
なし

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】				
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)				
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政				
第3回	社会教育の意義と内容				
第4回	社会教育の方法・形態				
第5回	公民館とは				
第6回	図書館とは				
第7回	博物館とは				
第8回	コミュニケーション・スキル				
第9回	ワークショップの技法				
第10回	集団思考法、組織心理学				
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー				
第12回	プランニング				
第13回	プレゼンテーション				
第14回	ワークショップの計画				
第15回	ワークショップの実際				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種 類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	社会教育の方法				
第2回	社会教育と学校教育の関係				
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情				
第4回	学習成果の活用方法・評価方法				
第5回	教育普及活動				
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ				
第7回	ワークシートの要点				
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法				
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP				
第10回	アウトリーチの歴史と方法				
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ				
第12回	リピーターへの視点				
第13回	ボランティアの養成				
第14回	指定管理者制度				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	現代青年の文化活動（1）				
第2回	現代青年の文化活動（2）				
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）				
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）				
第5回	子育て・文化協同（1）				
第6回	子育て・文化協同（2）				
第7回	環境問題に取り組む市民（1）				
第8回	環境問題に取り組む市民（2）				
第9回	人権学習（1）				
第10回	人権学習（2）				
第11回	ボランティア活動（1）				
第12回	ボランティア活動（2）				
第13回	青年の自立支援（1）				
第14回	青年の自立支援（2）				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」						
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）						
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系						
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案						
第5回	社会教育計画の実例の検討						
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化						
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク）						
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）						
第9回	社会教育調査とデータの活用						
第10回	学習成果を発表する場づくり						
第11回	子ども読書活動推進計画						
第12回	芸術文化振興に関する計画						
第13回	スポーツ振興に関する計画						
第14回	家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画						
第15回	総括 振り返りとシェアリング						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種 類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学習の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育				
第2回	社会教育と住民参加				
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割				
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出				
第5回	学習成果の公開と評価				
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク				
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成				
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み				
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市				
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村				
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市				
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町				
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市				
第14回	成果発表				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
【成績評価（方法・基準）】							
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	社会教育の理念と制度						
第3回	ユネスコ学習権宣言とその展開						
第4回	戦後日本社会の変容と社会教育の課題						
第5回	地域開発、公害問題						
第6回	森林保護と漁業の発展						
第7回	原子力発電をめぐる諸問題						
第8回	少子高齢化、過疎化とまちづくり						
第9回	日本社会の格差と貧困						
第10回	子ども食堂						
第11回	義務教育費の無償化とまちづくり						
第12回	性的マイノリティの人権						
第13回	地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木						
第14回	社会的ひきこもり者支援						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）							
【学生へのメッセージ】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05210] 社会教育演習【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の枠割を理解する。学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
【成績評価（方法・基準）】							
発表を含む期末レポート70%、授業への取り組み姿勢30%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	学びの拠点としての社会教育施設						
第3回	学習支援者としての社会教育主事の専門性						
第4回	身延町の社会教育施設（公民館）						
第5回	身延町の社会教育施設(中富和紙の里)						
第6回	身延町の社会教育施設（金山博物館）						
第7回	参加者からの講座企画案の検討（1）						
第8回	参加者からの講座企画案の検討（2）						
第9回	環境問題の講座企画事例						
第10回	平和教育の講座企画事例						
第11回	社会の格差と貧困についての講座企画事例						
第12回	家族支援についての講座企画事例						
第13回	文化活動についての講座企画事例						
第14回	地域の過疎化対策についての講座企画事例						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容 『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一 『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光 『国際教育の研究』 桐書房							
【学生へのメッセージ】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09005] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：～とき・～直後に、2課：～している (進行中)						
第3回	3課：～後で、4課：範囲の始まりと終わり・その間						
第4回	5課：～だけ、6課：～だけではなく・それに加えて						
第5回	7課：～について・～を相手にして、8課：～を基準にして						
第6回	9課：～に関連して・～に対応して、10課：～や～など						
第7回	11課：～に関係なく・無視して、12課：強く否定する・強く否定しない						
第8回	13課：～ (話題) は、14課：～けれど						
第9回	15課：もしそうなら・たとえそうでも、16課：～だから (理由)						
第10回	17課：～だから (理由) 、18課：～できない・困難だ・～できる						
第11回	19課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると、20課：結果はどうなったか						
第12回	21課：強く言う・軽く言う、22課：～だろうと思う						
第13回	23課：感想を言う・主張する、24課：提案する・意志を表す						
第14回	25課：強くそう感じる・思いが強いられる、26課：願う・感動する						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーイーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html]							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09006] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	第2部1課：文の組み立て ; 決まった形						
第2回	第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式						
第3回	第2部3課：同上 ; 接続に注意						
第4回	第3部1課：時制						
第5回	第3部2課：条件を表す文						
第6回	第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け						
第7回	第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け						
第8回	第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け						
第9回	第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け						
第10回	第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け						
第11回	第3部8課：「は・が」の使い分け						
第12回	第3部9課：接続表現						
第13回	第3部10課：省略・繰り返し・言い換え						
第14回	第3部11課：文体の一貫性						
第15回	第3部12課：話の流れを考える						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09007] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：時間関係、2課：範囲の始まり・限度						
第3回	3課：限定・非限定・付加、4課：例示						
第4回	5課：関連・無関係、6課：様子						
第5回	7課：付随行動、8課：逆接						
第6回	9課：条件、10課：逆接条件						
第7回	11課：目的・手段、12課：原因・理由						
第8回	13課：可能・不可能・禁止、14課：話題・評価の基準						
第9回	15課：比較対照、16課：結末・最終の状態						
第10回	17課：強調、18課：主張・断定						
第11回	19課：評価・感想、20課：心情・強制的思い						
第12回	模擬試験						
第13回	模擬試験						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09011] 作文 (Composition)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	代名詞の使い方 1						
第3回	代名詞の使い方 2						
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ						
第5回	接続詞の使い方 1						
第6回	接続詞の使い方 2						
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ						
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1						
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2						
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3						
第11回	意見を述べる 1						
第12回	意見を述べる 2						
第13回	意見を述べる 3						
第14回	課題作文 (原稿用紙を使用)						
第15回	課題作文 (レポート用紙を使用)						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09012] 作文 (Composition)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回	まぎらわしい表現 1						
第3回	まぎらわしい表現 2						
第4回	まぎらわしい表現 3						
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回	中間報告 レポート作成						
第11回	討論 その1						
第12回	討論 その2						
第13回	討論 その3						
第14回	課題・報告書作成						
第15回	課題・報告書作成						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』(第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09013] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 簡単な聞き取り						
第2回	会話 (その1)						
第3回	会話 (その2)						
第4回	会話 (その3)						
第5回	会話 (その4)						
第6回	会話 (その5)						
第7回	会話 (その6)						
第8回	会話 (その7)						
第9回	会話 (その8)						
第10回	時事 (その1)						
第11回	時事 (その2)						
第12回	時事 (その3)						
第13回	時事 (その4)						
第14回	時事 (その5)						
第15回	まとめ 聴解 への布石						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。							
【オフィスアワー】							
火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09014] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、聴解に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	練習問題 (その1)						
第3回	練習問題 (その2)						
第4回	練習問題 (その3)						
第5回	練習問題 (その4)						
第6回	練習問題 (その5)						
第7回	練習問題 (その6)						
第8回	練習問題 (その7)						
第9回	練習問題 (その8)						
第10回	練習問題 (その9)						
第11回	練習問題 (その10)						
第12回	練習問題 (その11)						
第13回	練習問題 (その12)						
第14回	模擬試験・解説 (その1)						
第15回	模擬試験・解説 (その2)						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09016] 会話 (Conversation)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	好きなシーンを紹介しよう						
第2回	子どもたちに母国の行事を紹介しよう						
第3回	グラフや表を説明しよう						
第4回	困った状況を伝えて交渉しよう						
第5回	不満に対処しよう						
第6回	就職試験制度について説明しよう						
第7回	働くことの意義について討論しよう						
第8回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討						
第9回	身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習						
第10回	スピーチコンテストのリハーサル						
第11回	身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション						
第12回	心に残る言葉						
第13回	留学生生活を振り返って						
第14回	将来の夢を語ろう						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09018] 漢字 (Chinese Character)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1						
第3回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2						
第4回	訓読みを覚えよう その1						
第5回	訓読みを覚えよう その2						
第6回	難しい読みを覚えよう その1						
第7回	難しい読みを覚えよう その2						
第8回	語彙で覚えよう その1						
第9回	語彙で覚えよう その2						
第10回	語彙で覚えよう その3						
第11回	語彙で覚えよう その4						
第12回	いろいろな覚え方をしよう その1						
第13回	いろいろな覚え方をしよう その2						
第14回	新聞を読もう その1						
第15回	新聞を読もう その2						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかける必要があります。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09019] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
【学生へのメッセージ】							
語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09021] 漢字 (Chinese Character)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回						
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回						
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回						
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回						
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回						
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回						
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回						
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回						
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回						
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回						
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回						
第13回	言葉の構成について						
第14回	音の変化について						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかける必要があります。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09022] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
日本語能力試験（N1、N2）合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク）2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』（ジェイ・リサーチ出版）2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著（アスク出版）2011年							
【学生へのメッセージ】							
事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。							
【オフィスアワー】							
水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09023] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み30%、模擬試験70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス：テキストの例題をやってみよう						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1						
第3回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2						
第4回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3						
第5回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1						
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2						
第8回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3						
第9回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4						
第10回	第3部 実戦問題 その1						
第11回	第3部 実戦問題 その2						
第12回	第3部 実戦問題 その3						
第13回	第3部 実戦問題 その4						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめおよび振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09024] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる。						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09025] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09026] 会話 (Conversation)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	自己紹介で好印象を与えよう						
第3回	きっかけを話そう						
第4回	町の様子を話そう						
第5回	健康について話そう						
第6回	自分の特技について伝えよう						
第7回	言い換えて説明しよう						
第8回	印象に残った出来事を話そう						
第9回	比べて良さを伝えよう						
第10回	動きの順序を説明しよう						
第11回	ストーリーを話そう						
第12回	最近の出来事を話そう						
第13回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1						
第14回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[01339] 世界遺産研究				
期 間	前期 (15回)	単 位 数	選 択 (2)	種 類	講 義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
世界遺産研究					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
身延山大学が行っている、世界遺産ラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトを通してインド・インドシナの世界遺産に指定されている遺跡の学習を行う。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
基本的にはラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトに参加して、実際に修復や調査を行う。プロジェクトの実施がない場合に講義 (スライド・ビデオ等使用) のみで進めて行きたい。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前事後の学習として、120分程度を要する。各自問題意識をもって各講義を受講してもらいたい。					
【成績評価 (方法・基準)】					
作業報告書あるいは試験50% 受業への取り組み姿勢25%、事前学習 (企画書あるいは予習)・事後学習 (日報あるいは復習) 25%。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	授業の進め方、世界遺産の概略				
第2回	ラオス・ルアンプラバン、ランサーン王朝の歴史				
第3回	ラオス・ルアンプラバンの建築及び町並み				
第4回	ラオス・ルアンプラバン及びピエンチャンの仏像				
第5回	ラオス・ルアンプラバン仏像の修復過程				
第6回	インド・アジャンタ				
第7回	インド・エローラ				
第8回	スリランカ・アヌラーダプラ他				
第9回	タイ・スコータイ遺跡				
第10回	タイ・アユタヤ遺跡				
第11回	ミャンマー・バガン				
第12回	カンボジア・バイヨン (仏教寺院)				
第13回	カンボジア・アンコールワット (ヒンドゥー教寺院)				
第14回	インドネシア・ボロブドゥール (大乘仏教寺院)				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
ラオス・ルアンプラバン仏像修復プロジェクト日報及び報告書 (身延山大学東洋文化研究所所報) 紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
世界遺産仏像修復プロジェクトは選抜制で厳しい審査が在る為、だれでも参加できるわけではない。したがってプロジェクト参加が基本なので、受講に際しては必ず担当教員の所まで受講の有無を確認に来ること。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[01340] 仏教考古学【資格06340】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	長澤 宏昌		ナガサワ コウショウ		nagasawa kosyo
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送行為やその儀礼を知ることは、言い換えれば人間らしさを確認することでもある。魔の歴史を通じて改めてそれを意識すると同時に、葬送行為を簡略化もしくは不要なものとする現代社会の実態を知ること、僧侶を目指す学生諸君がこれから何を為すべきかを、学生とともに考える。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
仏教考古学とは、遺跡からの出土品と寺院その他の伝世品を通して、仏教の成り立ちや変遷を調査研究する考古学の分野である。本来、仏教考古学の目的はこれらの遺物にどのような種類や存在意義があるのかを学ぶことであるが、この講義では、考古学の成果に基づき仏教受容に重要なかわりがある「伝来以前の日本列島の埋葬や信仰形態」を理解することに主眼を置き、現代社会で仏教意識が希薄になっている状況との対比を行う。それにより、僧侶を目指す学生に、これから僧侶として何をなすべきかを認識してもらうためである。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義により、埋葬や信仰の歴史及び遺跡出土仏教関係遺物・遺構の概説を行う。日本においては、古墳時代前期以前は基本的には仏教とは無縁であるが、旧石器時代以降、頑なな埋葬や信仰への思いを学ぶことによって、現代社会で急激におろそかにされつつある祖先や家族・一族の繋がりを再確認する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。授業の理解度を確認するため、翌週に前授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括ではこのレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末試験を60%、受講態度（20%）毎回の授業内容をまとめたレポート（20%）を重視する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	仏教考古学の定義と講座内容概説				
第2回	発掘調査の理論・旧石器時代の信仰と埋葬				
第3回	縄文時代の埋葬と信仰 1				
第4回	縄文時代の埋葬と信仰 2				
第5回	弥生時代の埋葬と信仰				
第6回	古墳時代の埋葬と信仰				
第7回	古代・中世の埋葬と信仰				
第8回	近世・近現代の埋葬と信仰				
第9回	伝来した仏教と埋葬儀礼との関わり（古墳と仏教）				
第10回	遺跡にみられる先祖供養の痕跡				
第11回	民俗学から見た先祖観 1				
第12回	民俗学から見た先祖観 2				
第13回	現代社会と先祖観				
第14回	総括				
第15回	まとめと試験				
【教科書・参考書】					
教科書：長沢宏昌『今、先祖観を問う 埋葬の歴史と現代社会』石文社 初回授業時に頒布する。参考書：仏教考古学講座、仏教考古学辞典（ともに雄山閣）。					
【学生へのメッセージ】					
講義で学ぶこと、現代社会の仏教を取り巻く状況がいかに乖離しているかに気付いてほしいと同時に、その認識のもと僧侶として何をなすべきかを考えてほしい。					
【オフィスアワー】					
毎週、授業の前後に教室で受け付けます。					
【実務経験】					
住職24年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目	仏教芸術系科目

講義名	[01341] 文化財研究
-----	---------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo
-----	-------	------------	----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

文化財は人体に例えればDNAに相当する。これを知ることによって、地域や国の大本（おおもと）を知ることになる。また、現在では知ることのできない、途絶えたモノや習俗などを知ること、現在に伝わる儀礼などの意味を真に理解できる。それらはすべて必要であったからこそ、先人の智慧によって編み出されたのであり、一度途絶えたら、二度と得られないかけがえないものであることを学生に考えてほしい。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

文化財研究とは聞き慣れないうえ抽象的な言葉であるが、遺跡出土遺物や絵画、彫刻、民具などを研究対象として、モノ自体の研究と同時に、それらが作り出された背景や自然環境、さらには使用法を通して、地域の生活を知ることが目的とした学問である。この授業では遺跡出土の埋蔵文化財を中心とした有形文化財を対象とし、「地域」を理解することを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義により、文化財の区分や文化財から何がわかるかを理解し、地域の生活習慣や歴史を明らかにする。また、現代社会においては、あらゆる情報が、大都市から発信されたものに画一化されるが、文化財の研究と保護によって、失ってはならない地域の重要性を再確認する。また、必要に応じて、博物館等の見学を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。授業の理解度を確認するため、翌週に前回授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括では、このレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。

【成績評価（方法・基準）】

期末試験60%、受講態度（20%）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20%）で評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	文化財研究の意義と講座内容概説
第2回	文化財とは何か
第3回	伝世した文化財と危機
第4回	文化財の現在
第5回	文化財を伝える
第6回	どこまで復元するのか
第7回	文化財の展示
第8回	文化と技術・縄文時代の酒造り
第9回	文化と技術・日本酒ができるまで
第10回	富士山と文化財・富士山とはどのような文化財か
第11回	富士山と文化財・富士山経ヶ岳の出土遺物
第12回	民俗文化財・伝承の重要性
第13回	民俗文化財・葬儀と墓をめぐる民俗
第14回	総括
第15回	試験

【教科書・参考書】

毎週、講義の初めに必要資料を配付する。

【学生へのメッセージ】

文化財は、その地域の生活を形に示したモノである。これを認識することはまさに地域を知ることであり、学生諸君が将来生活するいかなるところにも、それぞれの地域の文化と文化財が存在することを意識し、そのことが寺院経営の大きな柱となることを理解してほしい。

【オフィスアワー】

毎週、授業の前後に教室で受け付けます。

【実務経験】

山梨県立考古博物館学芸員20年、山梨県埋蔵文化財センター文化財主事25年。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01342] 寺院資料論						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本の寺院に所蔵されている資料（史料）やその保存建築について、基本的な分類の理解などを中心として理解を深める。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
本講義を受講することにより寺院資料や建築における基礎的知識を得ることができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
資料等を配布して授業を進めるが、建築物を実際に見学しての授業も行う予定である。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
事前事後の学修確認25% 授業に対する取り組み姿勢25% 学力確認レポート50%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	資料護持						
第3回	寺院資料の現状						
第4回	修理と保存の姿						
第5回	卷子・軸装・折り本						
第6回	保存と管理施設						
第7回	保存設備（建築）と目録作成 その1						
第8回	保存設備（建築）と目録作成 その2						
第9回	宝蔵 その1						
第10回	宝蔵 その2						
第11回	虫損とその対策						
第12回	曝涼 その1						
第13回	曝涼 その2						
第14回	その他、宝蔵建築の事例						
第15回	まとめ。						
【教科書・参考書】							
教科書：適宜、プリントなどを配布する。							
参考書：『寺宝護持の心得』（ISBN4890451218、1996、日蓮宗宗務院）、その他進捗状況を鑑み、随時指示する。							
【学生へのメッセージ】							
実際の寺院等の見学も行う予定である。日ごろ問題意識をもって講義に取り組んで貰いたい。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01343] 日本文化史						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
この授業は日本文化とその歴史について、主に仏教からの影響を中心として勉強していきます。日本文化は仏教を始め様々な外来文化を受容する一方、それを独自に改変・展開することで多彩な広がりを見せています。本講義では文学・美術などの芸術作品や、年中行事などの風習・慣習などを糸口とし、古代から近現代に至るまでの日本文化について理解を深め基本的な知識を習得することを、受講生の到達目標とします。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
日本文化について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	聖徳太子と日本						
第3回	仏教文学（1）：古典						
第4回	仏教美術						
第5回	神仏習合の文化（1）：その諸様相						
第6回	神仏習合の文化（2）：日蓮聖人と神祇						
第7回	唱える仏教（1）：その創出						
第8回	唱える仏教（2）：その展開						
第9回	お盆の諸相						
第10回	葬式の諸相						
第11回	食文化と仏教						
第12回	日本文化創出の試み						
第13回	仏教文学（2）：近代						
第14回	近代知識人の日本文化論（坂口安吾、南方熊楠らを中心に）						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014）、蓑輪顕量『日本仏教史』（春秋社、2015）、末木文美士『日本宗教史』（岩波新書、2006）							
【学生へのメッセージ】							
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[01371] 日蓮宗の歴史資料				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教団史の史料、特に宗門関係古文書に親しみ基礎的な史料読解力をつけることを目的とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
本講義を受講することにより、近世日蓮教団が為政者（幕府）より課せられた宗教統制や当時の寺院と民衆との関係、さらに社会情勢を理解することができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
史料を読解して内容を理解するためには、さまざまな辞典や参考文献を駆使して「調べる」ことが必要となる。受講生諸君にテキストの各部分を割り当てて順次発表してもらう。割り当て部分の発表は必須である。視聴覚教材を用い、一部タブレット端末等を使用して双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。内容としては、あらかじめ配布したプリント並びに指示した参考書は必ず読んでおくこと（事前）。受講後は講読した古文書についてまとめノートを作成すること（事後）。					
【成績評価（方法・基準）】					
学期末レポート70%、授業及び課題に対する取り組み姿勢30%。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	日蓮教団史の参考文献				
第2回	「宗門改」関係書状 概説				
第3回	「宗門改」関係書状 講読（その1）				
第4回	同上（その2）				
第5回	同上（その3）				
第6回	同上（その4）				
第7回	同上（その5）				
第8回	同上（その6）				
第9回	同上（その7）				
第10回	同上（その8）				
第11回	同上（その9）				
第12回	同上（その10）				
第13回	「宗門改」と日蓮宗				
第14回	「縁付」と「寺送」に対する日蓮宗寺院の対応				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：事前にプリントを用意する。参考書：中尾堯『日蓮宗の成立と展開』（吉川弘文館）、立正大学日蓮教学研究所編『日蓮教団全史上』（平楽寺書店）など					
【学生へのメッセージ】					
割り当て部分の発表・講読が必須である。各講義終了前に要点を述べるので、その要点に基づいた積極的な予習・復習を希望する。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
【実務経験】					
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01372] 仏教芸術特講						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ		amemiya yatarou		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
<p>仏教の多様な芸術表現のあらわれの中あから特に「祈り」と「美」の関係性に着目し、科学的な視点、西洋芸術との対比、また歴史的な造形表現の変遷から俯瞰することにより仏教の精神性がどのように造形に結実しているかを考察する。</p>							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
<p>本授業を受講することにより、仏像の造形性にとどまらず、仏教精神がいかに総合的に寺院空間を満たしているのかを理解することができる。</p>							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
<p>造形芸術の基本要素を歴史的な作品を提示しながら解説する。また「美」にまつわる科学的な知見を紹介することにより自然と造形の関連性、「かたち」に込められる「精神性」について検討する。各論点を討論を重ねることで造形の理解、基本的な素養を深めてゆく。</p>							
【授業外学修の方法（時間数）】							
<p>事前学習120分：次回授業で行う資料について予め調べておくこと。事後学習120分：授業で学習した論点を各自整理し、初見を記録する「まとめ」ノートを作成する。</p>							
【成績評価（方法・基準）】							
<p>授業への取組み姿勢50%、レポート50%により総合的に評価します。</p>							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	カイダンス 祈りの造形						
第2回	ギリシャ彫刻にみる造形美と表現						
第3回	西洋世界にみる祈りの造形						
第4回	日本における仏像造形の変遷						
第5回	「美」とは何か 人間の営み						
第6回	「美」とは何か 自然の美						
第7回	プロポーションについて						
第8回	自然の幾何学						
第9回	色彩と調和						
第10回	美的総合（宗教的空間）						
第11回	西洋絵画にみる聖性						
第12回	手から生れるかたち（工芸）						
第13回	表現の社会性（現代美術）						
第14回	仏教精神の造形						
第15回	まとめ 「祈り」と「美」						
【教科書・参考書】							
<p>特になし。参考文献は授業中に紹介する。</p>							
【学生へのメッセージ】							
<p>授業で提示された視点で寺院空間をとらえなおすこと。自分の美意識を客観視して言葉で記述する。その記録としての「まとめノート」を作成すること。</p>							
【オフィスアワー】							
<p>質問などは講義時間の前後で受け付ける。</p>							
【実務経験】							
<p>伝統工芸士、硯作家</p>							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01373] 仏教芸術特講						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ		amemiya yatarou		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
造形的に対象を観察する技術を習得することにより仏像の美の構造を理解する。また、仏像造形の精神性を素材の特性、素材と人との関係性から考察する。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
実際に素材に触れることから体感する事を目標とする。本授業を受講することにより、対象を見る眼が深まり、「自然」「素材」「祈り」「かたち」の関連性の理解を深める事ができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
対象の考察を実践し造形的な物の見方を解説する。また実際に素材に触れながら、素材から導かれる「かたち」、その中に込められる精神性についての理解を深めていく。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学習120分：授業で行う資料について、下調べをしておくこと。事後学習120分：授業では体感による理解を重視するが、体感したものを言葉に置き換える技術の獲得を目標とする。「まとめノート」の作成を行うこと。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取組み姿勢（50%）。レポート（50%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス 仏を写す						
第2回	彫刻造形の観察 比率						
第3回	仏像の観察 比率						
第4回	彫刻造形の観察 構造						
第5回	仏像の観察 構造						
第6回	花の観察 生成の構造						
第7回	花の観察 技法						
第8回	貝の観察 生成の構造						
第9回	手の観察 比率・構造						
第10回	触覚による造形						
第11回	素材としての「木」						
第12回	「木」の造形						
第13回	素材としての「石」						
第14回	「石」の造形						
第15回	まとめ 空間構成						
【教科書・参考書】							
教科書は特に用いない。参考書は授業中に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
体感したことを言葉に置き換える習慣を身につけること。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成すること。							
【オフィスアワー】							
質問などは講義時間の前後に受け付ける。							
【実務経験】							
伝統工芸士、硯作家							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01374] 仏教絵画						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
仏画							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
仏教文化を探究する上で仏画の知識得る事は重要だと思う。本講義を受講することにより実際に仏画を制作する場から授業を進め、仏像に対する理解を深めることができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
各授業の前半で、狩野派を中心に仏画の周辺をスライド等で紹介して行く。 この授業では、テキスト・宝相華、を使用して、金箔・極彩色の模写を行い、その工程を通して授業を進めたい。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前・事後学習とも120分を目途とする。							
【成績評価（方法・基準）】							
作品(制作過程) 50%、講義への取り組み姿勢25%、事前学習・事後学習25% 受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておく事。受講後は時間内に達成できなかった箇所の彫刻を行うこと。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	授業の進め方、用具等の説明						
第2回	下板の作成						
第3回	金箔貼り 1						
第4回	金箔貼り 2						
第5回	下絵写し 1						
第6回	下絵写し 2						
第7回	白描 1						
第8回	白描 2						
第9回	彩色 1						
第10回	彩色 2						
第11回	彩色 3						
第12回	毛描き 1						
第13回	毛描き 2						
第14回	仕上げ、落款						
第15回	まとめ・批評						
【教科書・参考書】							
テキスト：工房自作のテキスト使用して宝相華の模写を行う。筆・箔ばし等道具類については工房所有の専属道具類を使用する。 それに関連した書籍を随時指示する。							
【学生へのメッセージ】							
履修人数制限あり。仏画制作には個人差があり、遅れている学生は時間外の模写作業を行う場合がある。							
【オフィスアワー】							
月曜日 5 時限以降に行う。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[01375] 仏教絵画						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
仏画							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
仏教文化を探究する上で仏画の知識得る事は重要だと思ふ。本講義を受講することにより実際に仏画を制作する場から授業を進め、仏教絵画に対する理解を深めることができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
この授業では、テキスト・飛天を使用して、金箔手板へ飛天の模写を行い、その工程を通して授業を進めたい。 また各授業の前半に、スライドを使用して、南宋・院体派、琳派、江戸絵画等の鑑賞を行う							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前・事後学習とも120分を目途とする。							
【成績評価（方法・基準）】							
作品(制作過程)50%、講義への取り組み姿勢25%、事前学習・事後学習25% 受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておく事。受講後は時間内に達成できなかった箇所の模写を行うこと。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	授業の進め方、用具の使用法の説明						
第2回	金箔貼り						
第3回	金箔貼り						
第4回	下絵写し						
第5回	下絵写し						
第6回	白描						
第7回	白描						
第8回	彩色						
第9回	彩色						
第10回	彩色						
第11回	毛描き						
第12回	毛描き						
第13回	毛描き						
第14回	仕上げ・落款等						
第15回	まとめ・批評						
【教科書・参考書】							
テキスト：工房自作のテキストを使用して飛天の模写を行う。筆・箔ばし等道具類については工房所有の専属道具類を使用する。 それに関連した書籍を随時指示する。							
【学生へのメッセージ】							
履修人数に制限あり。飛天の模写を行うに当たっては、個人差がある為、作業が遅れてしまった学生は時間外に模写を行ってもら う事がある。							
【オフィスアワー】							
月曜日5時限以降に行う。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[01376] 仏教音楽				
期間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	下宮 高純		シモミヤ コウジュン		shimomiya koujun
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
雅楽音楽・聲明音楽					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
日本音楽の源流である雅楽は 宮廷音楽として また神社寺院において神仏諸尊に奏献する音楽として ほぼ形を変えることなく今日まで傳承されてきました。また聲明は 雅楽や俗楽などの影響を受けつつ 佛教音楽音楽として現在でも傳承されています。本講座においては 雅楽についての基礎的な知識を学び 雅楽の初段階を演習し また「延山流聲明」・「池山流聲明」「光山流聲明」など 日蓮宗古儀聲明を また極楽声歌に代表される聲明雅楽合奏曲などを演習し 日本の音楽文化の源流にふれるところにその目的があります。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業方法は「講義」（=K）と「実技」（=W）が中心となります。目標値は 雅楽については 雅楽に関する基礎知識を理解すること 各楽器で平調「越殿楽」1行目を演奏できるようにすること 舞楽の基本動作を理解すること 実際に雅楽装束や舞楽装束を着装することなどです。聲明については日蓮宗古儀聲明を実唱します。また下記のような聲明雅楽合奏曲などにも触れてまいります。なお日蓮宗「宗定聲明」については他の講義と重複するので取り扱いません。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
音楽実技は一朝一夕に習得出来るものではないので 授業時間外にも各自が自発的に研修を積み重ねることが望ましいと思われます。さらにインターネット情報などによって 自らがその情報を活用調査研究し この講義に関係する諸事項を自発的に学修することを期待します。					
【成績評価（方法・基準）】					
最終レポート提出 = 40% ・ 音楽実技 = 40% ・ 受講姿勢 = 20% により総合評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	講座「佛教音楽」開講に当たって・雅楽概論 K				
第2回	雅楽史 K				
第3回	箏策 1 W				
第4回	鳳笙 1 W				
第5回	雅楽聲明音律論 K				
第6回	龍笛 W				
第7回	打楽器・絃楽器 1 W				
第8回	「越殿楽」合奏 1 W				
第9回	雅楽装束 1 W				
第10回	公開授業準備 W				
第11回	聲明概論 K				
第12回	宮内庁式部職楽部の管絃と舞楽 V視聴				
第13回	新たな音楽法要の試み（V視聴）				
第14回	極楽声歌「老君子」・「萬歳楽・池の涼しき」・「三十二相散吟打毬楽」 W				
第15回	FAQ				
【教科書・参考書】					
講義中に配布します。					
【学生へのメッセージ】					
雅楽楽器のいずれかを選択し、第10回公開講座に臨んで欲しい。					
【オフィスアワー】					
授業の質問などはメールにて対応する。アドレスは第一回目の授業の折に周知する。					
【実務経験】					
日蓮宗聲明師、雅楽師、宗教法人延命院代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[01377] 仏教音楽				
期間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	下宮 高純		シモミヤ コウジュン		shimomiya koujun
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
雅楽音楽・聲明音楽					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
日本音楽の源流である雅楽は 宮廷音楽として また神社寺院において神仏諸尊に奏献する音楽として ほぼ形を変えることなく今日まで傳承されてきました。また聲明は 雅楽や俗楽などの影響を受けつつ 佛教音楽音楽として現在でも傳承されています。本講座においては 雅楽についての基礎的な知識を学び 雅楽の初段階を演習し また「延山流聲明」・「池山流聲明」「光山流聲明」など 日蓮宗古儀聲明を また極楽声歌に代表される聲明雅楽合奏曲などを演習し 日本の音楽文化の源流にふれるところにその目的があります。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業方法は「講義」（=K）と「実技」（=W）が中心となります。目標値は 雅楽については 雅楽に関する基礎知識を理解すること 各楽器で平調「越殿楽」1行目を演奏できるようにすること 舞楽の基本動作を理解すること 実際に雅楽装束や舞楽装束を着装することなどです。聲明については日蓮宗古儀聲明を実唱します。また下記のような聲明雅楽合奏曲などにも触れてまいります。なお日蓮宗「宗定聲明」については他の講義と重複するので取り扱いません。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
音楽実技は一朝一夕に習得出来るものではないので 授業時間外にも各自が自発的に研修を積み重ねることが望ましいと思われます。さらにインターネット情報などによって 自らがその情報を活用調査研究し この講義に関係する諸事項を自発的に学修することを期待します。					
【成績評価（方法・基準）】					
最終レポート提出 = 40% ・ 音楽実技 = 40% ・ 受講姿勢 = 20% により総合評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	雅楽概論 K				
第2回	唱歌「越殿楽」W				
第3回	箏策 2 W				
第4回	鳳笙 2 W				
第5回	舞楽概論と舞 K・W				
第6回	龍笛 2 W				
第7回	打楽器・絃楽器 2 W				
第8回	「越殿楽」合奏 2 W				
第9回	雅楽装束 2 W				
第10回	公開授業 W				
第11回	朗詠「嘉辰」 W				
第12回	延山流「回向伽陀」・「法華讚歎」 W				
第13回	池山流「回向伽陀」・「本咒讚」・「初伽陀」 W				
第14回	光山流「初伽陀」				
第15回	レポート作成				
【教科書・参考書】					
講義中に配布します。					
【学生へのメッセージ】					
雅楽楽器のいずれかを選択し、第10回公開講座に臨んで欲しい。					
【オフィスアワー】					
授業の質問などはメールにて対応する。アドレスは第一回目の授業の折に周知する。					
【実務経験】					
日蓮宗聲明師、雅楽師、宗教法人延命院代表役員					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			宗教学系科目
講義名	[01437] 宗教と民俗【資格06434】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	4年
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
宗教は民俗（古くから民間社会に根づいてきた風習・習慣）に影響を与え、また同時に民俗は宗教に影響を与えています。このように「宗教と民俗」という切り離せない関係にある二つのトピックを主軸とし、本授業では仏教を始めとする世界の多様な信仰、日本を始めとする各国の文化について理解を深めることを目的とします。本授業を受講することにより、受講生は諸宗教および様々な文化伝統への理解を深め知識を得ることができるでしょう。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
宗教と民俗について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	ガイダンス			
第2回	インドの民俗			
第3回	仏教とフォークロア			
第4回	仏教と美術			
第5回	神仏習合（1）：その理論と文化			
第6回	神仏習合（2）：祖師たちと神祇信仰			
第7回	葬式の諸相（1）：インド、中国			
第8回	葬式の諸相（2）：日本の葬式仏教、さまざまな供養			
第9回	お盆の諸相（1）：その由来・意味と風習			
第10回	お盆の諸相（2）：日蓮遺文『盂蘭盆御書』講読			
第11回	日蓮遺文に見る民俗			
第12回	世界宗教と民俗：キリスト教、イスラム教の事例			
第13回	隠れキリシタンの文化			
第14回	南方熊楠の視座			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014）、蓑輪顕量『日本仏教史』（春秋社、2015）、南方熊楠『十二支考』（岩波文庫、1994）。				
【学生へのメッセージ】				
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。				
【オフィスアワー】				
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				宗教学系科目		
講義名	[01438] 世界宗教史 【資格05142】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
<p>本学は基本的に日蓮聖人を中心とする仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代世界の趨勢を知るためにも、世界における宗教の知識と歴史を身につけておくことが必要になります。そこで本講義では、世界の宗教について学びます。前期では、世界でも多くの信者を有する一神教のユダヤ教・イスラム教を中心に取り上げます（キリスト教は後期で）。</p>							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
世界の諸宗教について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
<p>教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。</p>							
【授業外学習の方法（時間数）】							
<p>この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。</p>							
【成績評価（方法・基準）】							
<p>授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。</p>							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	ユダヤ教 : 概論						
第3回	ユダヤ教 : 国家形成からバビロン捕囚まで						
第4回	ユダヤ教 : ヘレニズム文化以降						
第5回	ユダヤ教 : ラビ・ユダヤ教の時代						
第6回	東洋の宗教: ヒンドゥー教と仏教など						
第7回	イスラム教 : 概論						
第8回	イスラム教 : ムハンマドの登場						
第9回	イスラム教 : イスラム世界の確立						
第10回	イスラム教 : スンナ派とシーア派						
第11回	イスラム教 : スーフィズム						
第12回	世界各地の宗教: ゾロアスター教、マニ教など						
第13回	イスラム教 : イスラム世界の拡大化と近代化						
第14回	イスラム教 : イスラム世界の拡大化と近代化（承前）						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
<p>教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：市川裕『宗教の世界史7ユダヤ教の歴史』2009、佐藤次高『宗教の世界史11イスラムの歴史1』2010、小杉泰『宗教の世界史12イスラムの歴史2』2010</p>							
【学生へのメッセージ】							
キリスト教については後期の「世界宗教史」で取り上げるので、併せて受講することが望ましい。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目	宗教学系科目

講義名	[01439] 世界宗教史
-----	---------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	岡田 文弘	オカダ フミヒロ	okada fumihiro
-----	-------	----------	----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本学は基本的に日蓮聖人を中心とする仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代世界の趨勢を知るためにも、世界における宗教の知識と歴史を身につけておくことが必要になります。そこで本講義では、世界の宗教について学びます。前期に取り扱ったユダヤ教・イスラム教に引き続き、後期はキリスト教の歴史を学びます。キリスト教は周知の通り、現在の世界で最も多くの信者を有する巨大な宗教であり、それについて学ぶことは必須といえましょう。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

キリスト教の歴史について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（ノート持ち込み可の自由論述形式を予定。50%）により、総合的に評価を行ないます。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	ガイダンス
第2回	キリスト教前史
第3回	イエスと原始キリスト教
第4回	初期キリスト教
第5回	ローマ帝国とキリスト教
第6回	迫害の時代からコンスタンティヌス革命まで
第7回	十字軍の時代まで
第8回	宗教改革 : その起こり
第9回	宗教改革 : その展開
第10回	近代のキリスト教
第11回	近代のキリスト教
第12回	東方のキリスト教
第13回	東方のキリスト教
第14回	日本とキリスト教
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：松本宣郎『宗教の世界史8キリスト教の歴史1』2009、松本宣郎・高柳俊一『宗教の世界史9キリスト教の歴史2』2009、廣岡正久『宗教の世界史10キリスト教の歴史3』2018。

【学生へのメッセージ】

一神教（母体となるユダヤ教、関連の深いイスラム教）については前期の「世界宗教史」で扱うので、併せて受講することが望ましい。

【オフィスアワー】

水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）

【実務経験】

なし

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				宗教学系科目		
講義名	[01440] 世界の宗教思想【資格05144】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類	講 義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	諏訪 是隆		スワ ゼリユウ		suwa zeryu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
世界の宗教・思想を概観することによって、視野を広げる目を養っていく。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
本学においては、法華経、日蓮教学の理解・習得が基本目的とするが、他の宗教を学ぶことによって自身の宗教理解を深めことを目標とする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義によって授業を進めていくが、DVD鑑賞などを使い視覚的に理解を深めていく場合もある。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
日常生活の中で、常に宗教的な意義を考察する。							
【成績評価（方法・基準）】							
出席。講義最終日にレポート提出。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	イントロダクション						
第2回	宗教と文化						
第3回	キリスト教の成立						
第4回	キリスト教と文化						
第5回	キリスト教と哲学						
第6回	世界の宗教						
第7回	世界の宗教						
第8回	仏教以前のインド思想						
第9回	仏教の成立						
第10回	法華経の成立意義						
第11回	中国在来思想						
第12回	中国仏教						
第13回	法華経の内容						
第14回	日蓮聖人と法華経						
第15回	レポート提出						
【教科書・参考書】							
教科書：特に指定はしない。							
【学生へのメッセージ】							
宗教という枠組みを俯瞰的に見ることで、自身と宗教との関わり方が見えてくる。自分なりの宗教を語れるようになって欲しい。							
【オフィスアワー】							
授業の前後に教室にて対応します。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				宗教学系科目		
講義名	[01441] 現代宗教事情【資格05143】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
毎年「地域」と「宗教」を選択し集中して学修していく。今年は「韓国」の「仏教」がその対象になる。本授業では、韓（朝鮮）半島を中心として展開し、かつ中国、日本といった東アジアの仏教文化形成にも少なくない影響を与えてきた海東（朝鮮）仏教（Korean Buddhism）の歴史的展開並びにその特質（Koreanized Buddhism）について概説し、東アジア仏教研究のための海東仏教研究の意義と必要性を認識し、その理解を深めることを主眼とする。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
海東仏教の歴史と特質を学習し東アジア仏教研究に対する理解を深めることができる。受講者それぞれの研究意欲や課題設定のための視野を広げることができる。卒業論文に向けての研究の方法を習得し論文作成のためのスキルを高めることができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス、海東仏教通史						
第2回	同上						
第3回	中国仏教と日本仏教						
第4回	海東仏教と日本仏教						
第5回	朝鮮（韓国）仏教の特徴：歴史的背景、普遍性の自覚						
第6回	同上：韓国仏教の思想傾向						
第7回	現代にいたる思惟の諸特徴：序、人間結合の重視						
第8回	同上：個人崇拜の問題、呪術信仰、気概						
第9回	同上：現実的適応性、諸思想の対立と宥和						
第10回	同上：合理的思惟の問題、審美感の問題						
第11回	四国時代の仏教：高句麗、百濟、伽椰、新羅						
第12回	南北朝時代の仏教：統一新羅、渤海						
第13回	高麗時代の仏教						
第14回	朝鮮時代の仏教						
第15回	近代の仏教、まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：授業中に適宜資料を配付する。参考書：『朝鮮仏教史の研究』江田俊雄（国書刊行会）1977年、『朝鮮仏教史』鎌田茂雄著（東京大学出版会）1987年、『チベット人・韓国人の思惟方法』中村元著（春秋社）1989年、『1900-1999韓国仏教100年：朝鮮・韓国仏教史図録』金光植編（皓星社）2014年、『韓国仏教史』金龍泰著・佐藤厚訳（春秋社）2017年、『はじめての韓国仏教：歴史と現在』佐藤厚著（佼成出版社）2019年。その他、授業中に適宜資料を配付する。							
【学生へのメッセージ】							
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目	宗教学系科目

講義名	[01442] 現代宗教と葬祭
-----	-----------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo
-----	-------	------------	----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

葬送行為は、埋葬を中心として13万年前ごろのネアンデルタール人に始まり、現代にまで引き継がれている。ところがこの30年、埋葬と葬送行為を、そして供養を不要なものとする考え方が都市部を中心に急激に広がってきている。その流れは、情報発信力の強い都市部の考え方が当然とされ、右に倣えの方式で地方にも波及している。このままでよいのだろうか。学生とともに現状について考えたい。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

現代社会における葬祭のあり方は、社会環境やライフスタイルの変化に伴って、急激に変化している。本授業では、そうした変化を取り上げ、その背景も含めて理解することを目標とする。あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送儀礼を無用なものとする今日に考え方は、社会の基本であった家や地域社会の崩壊と密接に関連するのだが、現代社会の実態を、僧侶を目指す学生諸君はしっかりと把握しておくべきである。葬祭業界の現場では働く方にご出講いただく機会も授業日程に盛り込むことができれば、と考えている。

【授業方法（フィードバックの内容）】

基本的には講義によって授業を進めていく。講義内容については、まとめて板書していくので、ノート筆記に努めること。みずから筆記し、整理したノートは筆記試験に臨む際にも欠かせないものとなるので、この点、手を抜かないこと。口頭で伝えたことをどのようにノートするかについては、受講生諸君の主体性に任せる。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前・事後学修を通して、ノートの再読・整理と、教科書のほか関連する参考文献の読書に努めること。

【成績評価（方法・基準）】

授業中に、自筆ノートおよび授業中配付資料の持込参照可による試験を実施する（60%）。また、授業への取り組みが大事であるとの考えから、受講態度（20%）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20%）を重視する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	現代社会と迷走・供養について
第2回	埋葬と供養の歴史
第3回	現代社会と散骨 1
第4回	現代社会と散骨 2
第5回	現代社会と仏教 文献解題 1
第6回	現代社会と仏教 文献解題 2
第7回	多様化する葬送
第8回	僧侶はどう考えているか 1
第9回	僧侶はどう考えているか 2
第10回	葬祭の現場ではどう考えているか 1
第11回	葬祭の現場ではどう考えているか 2
第12回	葬送の民俗 1
第13回	葬送の民俗 2
第14回	授業のまとめ
第15回	まとめと試験

【教科書・参考書】

教科書：『今、先祖観を問う』長澤宏昌（石文社）2016 仏教考古学と共用し、初回授業時に頒布する。参考書：『葬式仏教正当論』鈴木隆泰（興山社）2013 『葬式は、要らない』島田裕巳（幻冬舎新書）2010 なお、必要に応じて関連資料を配布する。

【学生へのメッセージ】

葬祭をめぐる変化の具体相を知っておくことは、僧道を志す諸君にとっても必ず役に立つはずである。必須の知識であるといってもよい。しっかり学修してほしい。

【オフィスアワー】

毎週、授業の前後に教室で受け付けます。

【実務経験】

住職24年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[01531] 生涯学習概論 【資格06531】				
期間	前期（15回）	単位数	必修（2）		種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経緯と社会的背景、生涯学習と生涯教育の関係、生涯学習と学校教育・家庭教育・社会教育の関係、生涯学習の施策、関係する法令について解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
生涯学習という概念が社会で位置付けられるようになった経緯と社会的背景、またそれに対応する国や地方自治体の生涯学習政策について学びます。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末試験40%により総合的に評価します。 受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	対話的討論：「生涯学習とは何を指すのか」				
第2回	ポール・ラングラン（Paul Lengrand）の永久教育論（Éducation permanente）				
第3回	波多野完治の解釈 生涯教育から生涯学習へ				
第4回	OECDの「リカレント教育 - 生涯学習のための戦略 - 」1973年				
第5回	土光敏夫と「新しい産業社会における人間形成 長期的観点から見た教育のあり方に関する長期専門委員会」の考え				
第6回	中央教育審議会など国の審議会答申における生涯学習				
第7回	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律（生涯学習振興法、1990年）の内容				
第8回	臨時教育審議会答申に示された「生涯学習体系への移行」				
第9回	国や地方自治体の生涯学習政策				
第10回	家庭教育、学校教育、社会教育の役割と連携				
第11回	「生涯学習に関する世論調査」の推移				
第12回	生涯学習施設				
第13回	生涯学習を支援する専門職とその養成				
第14回	海外の生涯学習の動向				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
試験は、自筆の講義ノートの持ち込みを可としますが、板書された内容を書き写すだけでは答えることができない試験です。板書された内容を理解するために自分の言葉や記号で関係性を書き込むことが大切になります。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[01532] 生涯学習概論 【資格06532】				
期間	後期（15回）		単位数	選択（2）	種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習として学ぶ現代的課題を参加型学習形式や模擬授業として行います。また、地域課題解決の協働活動、まちづくり・地域活性化策としての生涯学習について具体的な事例をあげて解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
生涯にわたって学習することの意味、生涯学習の現代的課題、国や地方自治体の生涯学習政策、国内外における生涯学習論の系譜などの側面から、生涯学習の方法論について理解します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	生涯にわたって学習することの意味				
第2回	身近で日常的な生涯学習				
第3回	生涯学習施設で行われている「コト学習」				
第4回	生涯学習の方法論と支援する人材の資質・能力				
第5回	生涯学習としての地域学：掛川の「とはなにか学舎」				
第6回	現代的課題とは何か「三化け」「七化け」「新三化け」				
第7回	高齢化：高齢化社会、高齢社会、超高齢社会				
第8回	少子化の何が問題なのか				
第9回	男女共同参画化とM型社会				
第10回	地域課題解決の協働活動としての生涯学習				
第11回	まちづくり・地域活性化策としての生涯学習				
第12回	開かれた学校から学社連携・学社融合への移り変わり				
第13回	まなびネットとキャンパスネットワークシステム				
第14回	放送大学、市民大学、シニア大学				
第15回	総括発表 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		博物館学系科目	
講義名	[01571] 博物館資料保存論【資格05273】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】				
博物館資料の理念として、保存と活用によって国民の文化的向上と世界文化の進歩に貢献することが謳われている。よって、資料保存の基本理念から、博物館で行われている資料保存の実態やその具体的方法等について講義していく。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
博物館における資料保存の必要性について理解できるようにする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
授業は、実際の寺院資料をもとに、保存について考える形の授業とする。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修120分 授業で学習した主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学習レポート30%、授業に取り組む姿勢70%によって評価する。学外の博物館・資料を見学する場合があるが、その際は事前に連絡する。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	資料保存の意義			
第2回	資料保存の目的			
第3回	資料の保存と修復（1）			
第4回	資料の保存と修復（2）			
第5回	資料の保存と修復（3）			
第6回	資料の保存と環境（1）			
第7回	資料の保存と環境（2）			
第8回	資料の保存と環境（3）			
第9回	資料保存の実態（1）			
第10回	資料保存の実態（2）			
第11回	学外資料見学（1）			
第12回	学外資料見学（2）			
第13回	学外資料見学（3）			
第14回	学外資料見学（4）			
第15回	全体のまとめ			
【教科書・参考書】				
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）				
【学生へのメッセージ】				
「博物館概論」「博物館資料論」取得後に受講してもらいたい。				
【オフィスアワー】				
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。				
【実務経験】				
博物館学芸員として勤務経験がある。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		博物館学系科目		
講義名	[01572] 博物館経営論				
期間	後期（15回）	単位数	選択（2）	種類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	海老沼 真治		エビヌマ シンジ	ebinuma shinji	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
近年、博物館を取り巻く環境は厳しく、予算の減少や人員削減、さらには閉館・休館など存立の危機に瀕している博物館も少なくありません。また近年では、「観光への寄与」や「稼ぐ」ことが過度に求められるなど、これまでとは異なる困難に直面する博物館も増えていると考えられます。このような状況の中で、その必要性が高まっているのが、博物館を経営する（ミュージアム・マネージメント）という視点です。ただし「経営」と言っても、入館者数や収入を増やすということを主眼としているわけではありません。この授業では、博物館は誰のためにあるのか、何を目指しているのか、社会や地域にどのように貢献するのか、そのためにはどのような組織で、どのような事業を展開すればよいか、そうした博物館の活動をいかに評価するか、といった博物館経営に必要な論点を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
博物館経営に関連する今日的課題と経営上の基礎的な知識を習得するとともに、博物館が抱える課題を解決するためにどのように取り組むかを考え、実践できる能力を養うことを目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館経営に関する一般論的な講義とともに、様々な博物館の事例から、各地の博物館で実際に展開されている経営のあり方について、受講者とともに考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また博物館の実地見学も行う予定です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習90分：テキスト・レジュメを読み直すとともに、授業で紹介した博物館のウェブサイト等を確認し、現在の状況を把握する。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート40%、授業への取組の姿勢60%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情				
第2回	博物館経営（ミュージアム・マネージメント）の意義（1）				
第3回	博物館経営（ミュージアム・マネージメント）の意義（2）				
第4回	博物館の法・制度、博物館行政				
第5回	博物館の経営形態（1）				
第6回	博物館の経営形態（2）				
第7回	博物館施設の運営と管理				
第8回	博物館の組織				
第9回	博物館の使命と評価（1）				
第10回	博物館の使命と評価（2）				
第11回	博物館の広報・営業				
第12回	博物館と社会連携・ネットワーク				
第13回	事例研究（1）山梨県立博物館の施設・組織と経営				
第14回	事例研究（2）山梨県立博物館における評価のあり方				
第15回	博物館経営の実際と課題・まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版 2012年2月）、基本的にはレジュメを配布して授業を進めます。参考書：大堀哲・水嶋英治編著『博物館学』（学文社、2012年11月）、佐々木亨・亀井修著『博物館経営論』（放送大学教材、2013年3月）、P.F.ドラッガー著、上田惇生・田代正美訳『非営利組織の経営』（ダイヤモンド社、1991年7月）、岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』（人文書院、2020年2月）、そのほか、講義の内容に応じて紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
実際に博物館の見学を行うので、出席を重視します。博物館は時代の移り変わりとともに、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。とくに博物館経営では、現在の社会・経済の状況がその活動に反映される場合がありますので、時事問題にも関心を寄せ、博物館とどのような関わりがありそうかも考えてみてください。					

【オフィスアワー】

毎週授業の前後に教室にて受け付けます。

【実務経験】

山梨県立博物館学芸員（15年）。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		キャリア系科目	
講義名	[01733] インターンシップ			
期間	通年（4回）	単位数	必修（2）	種類 実習
対象学年	--	2年	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。				
【成績評価（方法・基準）】				
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）			
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。			
第4回	事後の報告書作成と発表会			
【教科書・参考書】				
特になし。				
【学生へのメッセージ】				
自分の将来を見据えて、なすべきことに対して、これまで培ったスキルがどのように役立つかを意識して事前学習を行い、実習に備えるようにしてください。				
【オフィスアワー】				
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。				
【実務経験】				
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			キャリア系科目
講義名	[01736] インターンシップ			
期 間	通年（4回）	単 位 数	必修（2）	種 類 実習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、インターンシップの経験を踏まえて、自ら積極的な姿勢で就労することによって、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習として、インターンシップを希望する企業等の概要について調べておくこと(5時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること(10時間程度)。				
【成績評価（方法・基準）】				
受け入れ側による評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>(1) 一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>(2) 身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）			
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。			
第4回	事後の報告書作成と発表会。（1名15分程度）			
【教科書・参考書】				
特になし。				
【学生へのメッセージ】				
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。				
【オフィスアワー】				
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。				
【実務経験】				
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01743] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単位数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
就職支援							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、連絡を取り合う手段として頻繁に使用する電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
【成績評価（方法・基準）】							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
【教科書・参考書】							
講義はプリントを配布します。							
【学生へのメッセージ】							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
【オフィスアワー】							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01744] キャリア教育						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
就職支援							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになり、また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけではなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。							
【成績評価（方法・基準）】							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	就職活動のプロセス						
第2回	自己分析その1						
第3回	自己分析その2						
第4回	企業研究とマッチング						
第5回	志望動機						
第6回	自己アピール						
第7回	履歴書の作成						
第8回	お礼状の書き方						
第9回	面接の種類と対策						
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ						
第11回	美しい姿勢とお辞儀/面接の流れを確認する						
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答例						
第13回	ディスカッションその1						
第14回	ディスカッションその2						
第15回	総括（小論文）						
【教科書・参考書】							
毎講義時にプリントを配布します。							
【学生へのメッセージ】							
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。							
【オフィスアワー】							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01753] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この授業における就業体験が役立つことを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺、行学寮、宿坊、本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。その際に電子機器を利用してインターネットで調べること。事後学習として、インターンシップで得たことについてまとめ、担当教員に報告すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書、および各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしゃ遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員と話し合っ決めてください。					
【オフィスアワー】					
インターンシップを行うにあたり、担当教員と話し合いを行うこと。オフィスアワーの時間以外に担当教員に相談する時は事前にメールで面談希望時間を提示すること。 望月真澄 smochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01754] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この体験が役立つようになることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。その際に電子機器を利用してインターネットで調べること。事後学習として、インターンシップで得たことについてまとめて担当教員に報告すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書、および各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしゃ遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員と話し合ってから決めること。					
【オフィスアワー】					
インターンシップを行うにあたり、担当教員と話し合いを行うこと。オフィスアワー以外に担当教員に相談する時は事前にメールで面談希望時間を提示すること。望月真澄 smochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり。					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01871] ゼミナール (池上要靖)				
期間	前期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
初期仏教文献の講読、仏教福祉に関する文献研究とフィールド研究のいずれかの分野について、演習形式にて授業を進める。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
文献講読の場合は、基礎的なパーリ語やサンスクリット語の文法力を養い、辞書を用いてその意味を翻訳できる能力が身につくことを目標とする。仏教福祉の分野では、戦後の社会福祉の変遷を確かめ、社会福祉の実践的な課題を文献から読み込み、その課題解決力を養うことを目標とする。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
演習形式である。第一回目の授業で、ゼミナールからの継続であり、テキストの確認を行い、割り当てを決定する。二回目からは、分担箇所にしたがって、一人20分程度の翻訳とその解説を行う。その後、教員が補足・または訂正して、次の分担者に移り、同じルーティンを繰り返す。中間発表では、翻訳から得られた内容を掘り下げ、詳述する。まとめでは、それらの知見から得られたものを情報として他者に伝えられるようスキルを鍛える。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修時間として、約3時間は必要である。事後学修時間としては1時間半程度が必要である。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業時間中の発表内容 (70%)、中間発表 (10%)、最後の「まとめ発表」 (20%) である。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	授業の進め方、評価の方法、テキストの紹介と文献の説明。				
第2回	演習 1				
第3回	演習 2				
第4回	演習 3				
第5回	演習 4				
第6回	演習 5				
第7回	演習 6				
第8回	中間報告(プレゼンテーション型)				
第9回	演習 7				
第10回	演習 8				
第11回	演習 9				
第12回	演習10				
第13回	演習11				
第14回	演習12				
第15回	まとめと発表				
【教科書・参考書】					
分野によってテキストが異なるので、受講生と相談の上、テキストと辞書・参考書を提示する。					
【学生へのメッセージ】					
演習形式の授業なので、欠席しないこと。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[01877] ゼミナール (望月真澄)				
期間	前期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、身延山内の文化財や史跡について講義し、その後霊場を巡見する。そこで資(史)料発掘や調査といった作業を通じ、仏教史研究の方法を学んでいく。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
日蓮教団史や身延山史の研究方法を理解し、自分で仏教研究ができるようになることを目標とする。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
講義と演習を行うので授業内容を事前に学修しておくことが必要となる。巡見は天気のよい日に行うので、授業計画がずれる場合がある。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修：次回に巡回する場所について120分の調べ学習を行う。事後学修：巡回した場所について120分の復習を行い、不明な箇所等を調べた上で次回の授業に臨むこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
期末レポート (40%)、授業への取り組み姿勢 (60%) で評価する。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	日蓮教団史の研究方法				
第3回	身延山史の研究方法				
第4回	身延山内巡見場所に関する講義 (1)				
第5回	巡見 (1) 実施				
第6回	身延山内巡見場所に関する講義 (2)				
第7回	巡見 (2) 実施				
第8回	身延山内巡見場所に関する講義 (3)				
第9回	巡見 (3) 実施				
第10回	身延山内巡見場所に関する講義 (4)				
第11回	巡見 (4) 実施				
第12回	身延山内巡見場所に関する講義 (5)				
第13回	巡見 (5) 実施				
第14回	身延山という霊場を知る				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：望月真澄『御宝物で知る身延山の歴史』日蓮宗新聞社、2006年。参考書：望月真澄『身延山を歩く』イーフォー、2011年。					
【学生へのメッセージ】					
身延山を歩いて霊場に遺された資料を調査する授業を行うので歴史に関心のある学生に受講してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室、教室で対応する。					
【実務経験】					
日蓮宗教師の資格を有し、身延山学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[01971] ゼミナール (池上要靖)				
期間	後期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
初期仏教文献の講読、仏教福祉に関する文献研究とフィールド研究のいずれかの分野について、演習形式にて授業を進める。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
文献講読の場合は、基礎的なパーリ語やサンスクリット語の文法力を養い、辞書を用いてその意味を翻訳できる能力が身につくことを目標とする。仏教福祉の分野では、戦後の社会福祉の変遷を確かめ、社会福祉の実践的な課題を文献から読み込み、その課題解決力を養うことを目標とする。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
演習形式である。ゼミナール を履修済であることが必須である。第一回目の授業で、ゼミナール からの継続であり、テキストの確認を行い、割り当てを決定する。二回目からは、分担箇所にしたがって、一人20分程度の翻訳とその解説を行う。その後、教員が補足・または訂正して、次の分担者に移り、同じルーティンを繰り返す。中間発表では、翻訳から得られた内容を掘り下げ、詳述する。まとめでは、それらの知見から得られたものを情報として他者に伝えられるようスキルを鍛える。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修時間として、約3時間は必要である。事後学修時間としては1時間半程度が必要である。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業時間中の発表内容 (70%)、中間発表 (10%)、最後の「まとめ発表」 (20%) である。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	授業の進め方、評価の方法、テキスト・辞書・参考書の説明、分担箇所の割り当て				
第2回	演習1				
第3回	演習2				
第4回	演習3				
第5回	演習4				
第6回	演習5				
第7回	演習6				
第8回	中間発表				
第9回	演習7				
第10回	演習8				
第11回	演習9				
第12回	演習10				
第13回	演習11				
第14回	演習12				
第15回	まとめと発表				
【教科書・参考書】					
特になし。第一回目の授業で、決定するテキストを用いること。					
【学生へのメッセージ】					
演習形式では、欠席は厳に慎んでもらいたい。欠席は他の受講生の迷惑になる。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami@min.ac.jp)。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[01977] ゼミナール (望月真澄)				
期 間	後期 (15回)	単 位 数	必修 (2)	種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、身延山周辺の文化財について講義し、その後巡見する。資(史)料発掘や調査といった作業を通じ、仏教史研究の方法を学んでいく。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
仏教に関わる文化財や資料の見方がある程度理解でき、自分で仏教史研究ができるようになることを到達目標とする。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
身延山内や周辺を巡見するので、その際は歩きやすい服装で参加すること。雨の日は、図書館等で身延山に関する調べ学習を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 次回に巡回する場所について120分の調べ学習を行う。					
事後学修 巡回した場所について120分の復習を行い、不明な箇所等を調べた上で次回の授業に臨むこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
期末レポート (40%)、授業に取り組む姿勢 (60%) で評価する。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	身延山という霊場について				
第2回	身延山周辺の霊場について講義 (1)				
第3回	巡見 (1) 実施				
第4回	身延山周辺の霊場について講義 (2)				
第5回	巡見 (2) 実施				
第6回	身延山周辺の霊場について講義 (3)				
第7回	巡見 (3) 実施				
第8回	身延山周辺の霊場について講義 (4)				
第9回	巡見 (4) 実施				
第10回	身延山周辺の霊場について講義 (5)				
第11回	巡見 (5) 実施				
第12回	身延山周辺の霊場について講義 (6)				
第13回	巡見 (6) 実施				
第14回	巡見のまとめ				
第15回	全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：望月真澄『御宝物で知る身延山の歴史』日蓮宗新聞社、2006年。参考書：望月真澄『身延山参詣道を歩く』イーフォー、2011年。					
【学生へのメッセージ】					
身延山周辺を巡見する時は、歩きやすい服装で参加すること。					
【オフィスアワー】					
授業の開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗教師の資格を有し、身延山学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文
講義名	[02071] 卒業論文（池上要靖）			
期間	通年（30回）	単位数	必修（4）	種類 演習
対象学年	--	--	--	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
11月末までに卒業論文を作成するための指導を行う。内容は、学生個人個人により異なるが、一応の目安は授業計画に示している通りである。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
4年間の集大成である卒業論文を作成することが目的である。日本語であるならば、原稿用紙50枚、20,000字を満たす内容を整えなければならない。その内容は、一次資料をよく読み込み、その資料に関する二次資料を精査し、ケースによっては現地へ赴き調査を行い、専門性を高めることを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
基本的には、月に一回のゼミ内発表を通じて、自身の研究を客観的に見つめ、修正してゆく。そのため、一回目は10分程度、二回目以降は15分程度のプレゼンを行い、その後に問題点の吟味を行い、修正すべき点などがあれば次回への課題とする。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
本授業のための学修方法と言うよりも、論文を仕上げるための方法に則った学習計画を立てることが大切なので、個々人のテーマに沿って方法論を討議する。				
【成績評価（方法・基準）】				
最終的には、卒業論文の内容（90パーセント）、口頭試問点（10パーセント、複数人の教員による平均点）。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	卒論作成に向けたテーマの確認と方法論の検討			
第3回	方法論に則った資料蒐集（一次資料）			
第4回	方法論に則った資料蒐集（二次資料）			
第5回	途中まとめ			
第6回	一次資料の読み込み			
第7回	一次資料の読み込み			
第8回	一次資料の読み込み			
第9回	途中まとめ			
第10回	一次資料の読み込み と二次資料の通読			
第11回	一次資料の読み込み と二次資料の通読			
第12回	一次資料の読み込み と二次資料の通読			
第13回	一次資料の読み込みと二次資料の通読			
第14回	一次資料の読み込み と二次資料の通読			
第15回	途中まとめ と夏期休暇中の課題確認			
第16回	論題に向けた文章の作成と二次資料の蒐集			
第17回	論題に向けた文章の作成と二次資料の蒐集			
第18回	論題に向けた文章の作成			
第19回	論題に向けた文章の作成			
第20回	途中まとめ			
第21回	論文作成			
第22回	論文作成			
第23回	論文作成			
第24回	論文作成			
第25回	論文作成			
第26回	中間発表			
第27回	論文作成			
第28回	論文作成			
第29回	論文作成			
第30回	論文最終確認と提出			

【教科書・参考書】
学生個々によって異なるので、個別に対応する。
【学生へのメッセージ】
1年間の根気のいる研究となるので、怠けないようにして下さい。
【オフィスアワー】
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。
【実務経験】
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[02077] 卒業論文（望月真澄）
-----	--------------------

期 間	通年（30回）	単 位 数	必修（4）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	--	4年
------	----	----	----	----

担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho
-----	-------	------------	-------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

卒業論文を執筆するために必要な研究方法等について指導する。途中で卒論の中間報告を行い、完成まで指導する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

卒業論文を執筆するために、論文の書き方、資料引用の方法、使用する資料の読解について指導するので、これを受けて論文を完成することを到達目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

ステップアップの形で指導を行うため、指導日の事前学修120分、事後学修120分を行い卒論指導に臨むこと。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎週1回の授業日に指導するが、それ以外にも毎回事前学修120分、事後学修120分程度が必要となる。

【成績評価（方法・基準）】

提出された論文の作成過程及び卒論口頭諮問を併せて評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	研究方法 1
第2回	研究方法 2
第3回	資料蒐集 1
第4回	資料蒐集 2
第5回	資料蒐集 3
第6回	資料蒐集 4
第7回	資料蒐集 5
第8回	資料読解 1
第9回	資料読解 2
第10回	資料読解 3
第11回	資料読解 4
第12回	資料読解 5
第13回	資料読解 1
第14回	資料読解 2
第15回	中間報告
第16回	資料蒐集 6
第17回	資料蒐集 7
第18回	資料蒐集 8
第19回	資料蒐集 9
第20回	資料蒐集 10
第21回	論文の書き方 1
第22回	論文の書き方 2
第23回	論文の書き方 3
第24回	論文の書き方 4
第25回	論文の書き方 5
第26回	総合学習 1
第27回	総合学習 2
第28回	総合学習 3
第29回	まとめ 1
第30回	まとめ 2

【教科書・参考書】

特になし。学生の論題に合った文献等を授業中に紹介する。

【学生へのメッセージ】
毎週1回の指導日には必ず出席すること。
【オフィスアワー】
授業の開始前、終了後に卒論に関する質問等に対応する。研究室でも受け付ける。
【実務経験】
日蓮宗教師の資格を有し、身延山学芸員として勤務経験がある。

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	仏教芸術専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文
講義名	[02084] 卒業制作（柳本伊左雄）			
期 間	通年（30回）	単 位 数	必修（4）	種 類 演習
対象学年	--	--	--	4年
担当者	柳本 伊左雄	ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
卒業制作				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
社会の変化にともない、徒弟制度がほとんど崩壊してしまった現在、継承されてきた仏像の技術を習得する機会は少なくなってきた。授業内で習得するには限界があるが、本講義を受講することにより新しい試みも模索しながら、身延山大学独自の仏像修復技術を確立することができる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
実際に仏像の制作を行う。ゼミナールでは主に制作する仏像のデッサンを描きながら、制作する像様の決定を行う。技術的に個人差があるので、授業方法の内容については、ある程度流動的に行うつもりでいる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前事後の学習として、講義中の指示に基づいた内容を120分以上を要する。				
【成績評価（方法・基準）】				
作品50%、講義への取り組み姿勢25%、事前・事後学習25%。受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	制作資料の収集			
第2回	制作資料の検討			
第3回	デッサンの準備			
第4回	デッサン			
第5回	デッサン			
第6回	デッサン			
第7回	デッサン			
第8回	デッサン			
第9回	デッサン			
第10回	デッサン			
第11回	デッサン			
第12回	デッサン			
第13回	デッサン			
第14回	デッサン			
第15回	制作			
第16回	制作			
第17回	制作			
第18回	制作			
第19回	制作			
第20回	制作			
第21回	制作			
第22回	制作			
第23回	制作			
第24回	制作			
第25回	制作			
第26回	制作			
第27回	制作			
第28回	制作			
第29回	制作			
第30回	まとめ・批評			

【教科書・参考書】
教科書・参考書：制作過程において随時指示する。
【学生へのメッセージ】
制作する仏像選択においては、資料の収集を行うこと。彫刻を行うにあたり、絵が描けなければ決して彫ることはできないので授業時間以外にも工房でデッサンの修練を行う。なお人数に制限(3人)があるので受講に際しては前もって担当教員に相談に来ること。
【オフィスアワー】
月曜日5時限以降に行う。
【実務経験】
なし

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	仏教芸術専攻 資格取得科目		博物館学芸員資格取得課程		
講義名	[05071] 博物館実習				
期間	通年（14回）	単位数	必修（3）	種類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
全国各地の登録博物館・博物館相当施設で、博物館学芸員としての業務を実際に体験してもらう。館務実習の内容及び期間は、実習館に任せる。随時、学外における実習も行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
学芸員として勤務できるようになることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館実習は、館務実習・学外実習を併せて合計14日間行うこと。本学が主催する学外実習は随時行うが、その際は掲示板にて案内する。館務実習の日数は、その館の事情に任せているのでそれに従うこと。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
実習の際には、必ず事前学修120分、事後学修120分を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
本学で作成した実習評価に基づき、実習館で評価してもらう。そして、本課程が行う学外実習による評価を併せ、総合評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	学外実習 1				
第2回	学外実習 2				
第3回	学外実習 3				
第4回	学外実習 4				
第5回	学外実習 5				
第6回	学外実習 6				
第7回	学外実習 7				
第8回	館務実習 1				
第9回	館務実習 2				
第10回	館務実習 3				
第11回	館務実習 4				
第12回	館務実習 5				
第13回	館務実習 6				
第14回	館務実習 7				
【教科書・参考書】					
テキスト：特になし。参考書：全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『博物館実習マニュアル』（芙蓉書房出版）					
【学生へのメッセージ】					
館務実習や学外実習は時間厳守。出席重視なので遅刻・欠席をしないこと。学外実習が終わってから2週間以内に大学学務に実習録を提出し、指導教員の認印を受けること。春季・夏季中の実習は、休暇後に学校が始まってから2週間以内に実習録を提出すること。提出が遅いと実習録を受け付けません。よって実習録の提出期限を守ること。 授業計画の覽に14回の回数を記してありますが、合計14日間ということで解釈してください。					
【オフィスアワー】					
実習内容等に関して質問等があれば担当教員が研究室で対応する。					
【実務経験】					
望月真澄：博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：博物館学芸員（身延山宝物館）として勤務している。					